

令和2年度(2020年度)

病虫害発生予察情報 第11号

7月月報

北海道病虫害防除所 令和2年(2020年)8月17日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

I. 気象概況 札幌管区气象台発表 北海道地方気象速報

－『並温・少雨・多照』高気圧に覆われやすく多照、中旬は記録的少雨－

この期間の天気は、上旬は高気圧の張り出しや気圧の尾根の中となって広い範囲で晴れた日が多かったが、低気圧や気圧の谷の影響で雨の降った日もあった。中旬は高気圧の張り出しの中となって日本海側やオホーツク海側を中心に晴れた日が多かった。下旬は気圧の谷やオホーツク海から湿った気流の影響でオホーツク海側と太平洋側では曇りの日が多く、雨の降った日もあったが、日本海側では晴れた日も多かった。気温は上旬はかなり高く、月平均気温は平年並だった。降水量は中旬は平年よりかなり少なく、月降水量は少なかった。日照時間は上旬と中旬は平年より多く、月間日照時間は多かった。なお、1961年の統計開始以降、中旬の日本海側の降水量は最も少なかった。

上旬

1日：低気圧や前線の影響により、広い範囲で雨となったが、晴れた所もあった。2日：低気圧を含む気圧の谷の影響で広い範囲で雨が降った。日降水量は八雲町八雲で52.0mmなど。

3日：高気圧の張り出しの中となって概ね晴れたが、はじめ雨の降った所もあった。4日：高気圧の張り出しの中となって日本海側とオホーツク海側では晴れた所が多かったが、太平洋側では曇りで雨の降った所もあった。5～6日：気圧の尾根の中となって広い範囲で晴れたが、雨の降った所もあった。7～8日：低気圧を含む気圧の谷の影響により広い範囲で雨が降った。日降水量は7日に江差で72.0mm、8日に今金で71.0mmなど。9～10日：気圧の尾根の中となって広い範囲で晴れたが、雨の降った所もあった。

中旬

11～12日：低気圧を含む気圧の谷の影響により雨の降った所があったが、晴れた所もあった。13日：気圧の谷の影響により雨の降った所が多かったが、高気圧の張り出しの中となって日本海側では晴れた所もあった。14～16日：高気圧に覆われて晴れた所が多かったが、上空に寒気を伴った気圧の谷の影響により、大気の状態が不安定となって雨の降った所もあった。17日：高気圧の張り出しの中となって広い範囲で晴れた。18～19日：高気圧の張り出しの中となって日本海側やオホーツク海側では晴れたが、気圧の谷の影響により太平洋側では雨の降った所もあった。20日：高気圧に覆われて広い範囲で晴れた。

下旬

21日：前線を伴った低気圧の影響により広い範囲で雨が降ったが、太平洋側東部では晴れた所もあった。日降水量は枝幸町枝幸で54.0mmなど。22日：前線を伴った低気圧の通過により、全道的に雨が降った。日降水量は羽幌町焼尻で51.0mmなど。23日：低気圧を含む気圧の谷の影響で広い範囲で雨が降った。24日：気圧の谷の影響でオホーツク海側と太平洋側では広い範囲で雨が降ったが、日本海側では晴れた所も多かった。25日：湿った気流の影響でオホーツク海側と太平洋側では曇りで雨の降った所があったが、日本海側では晴れた所が多かった。26～27日：気圧の谷や湿った気流の影響で広い範囲で曇りで、太平洋側を中心に雨の降った所があったが、日本海側やオホーツク海側では晴れた所があった。27日に木古内で日降水量58.5mmなど。28日：気圧の谷や湿った気流の影響で、オホーツク海側や太平洋側では曇りの所が多かったが、日本海側では晴れた所が多かった。29日：湿った気流の影響で広い範囲で曇りで雨の降った所もあったが、日本海側では晴れた所もあった。30～31日：高気圧の張り出しの中となって概ね晴れた。

気候表(気温は平年差(℃)、降水量・日照時間・降雪量は比(%))を示す)

	気温偏差℃	階級	降水比%	階級	日照比%	階級
北海道22地点平均	+0.8	並	64	少	116	多
日本海側10地点平均	+0.7	並	67	少	135	か多
オホーツク海側4地点平均	+0.9	並	78	並	117	多
太平洋側8地点平均	+0.8	高	54	少	94	並

注) 階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階で表示します。各階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。

なお、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」(か→かなり)で表します。

II. 病害虫発生概況

注) 本資料における表中の0の表記について

0のみの場合、調査時に発生がなかったことを示す。0.0あるいは0.00などは、四捨五入により数値が表示されていないことを示す。

A. 水稻

1. いもち病（葉いもち） 発生期 並 発生量 やや少

予察田の「きらら397」における葉いもちの本田初発期は、北斗市では平年より早く、岩見沢市では平年並、比布町では平年より遅かった。発生量は、北斗市では平年よりやや多かったが、比布町では平年よりやや少なく、岩見沢市では平年より少なかった。

一般田における巡回調査によると、7月6半旬現在いずれの地点においても発生は認められていない。

予察田におけるいもち病の初発期

地点	品種名	取り置き苗初発期		本田初発期		平年数
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	6月28日	6月27日	7月22日	7月21日	9
	ななつぼし	6月29日	6月27日	7月22日	7月18日	9
比布町	きらら397	6月19日	6月22日	7月19日	7月13日	10
	ななつぼし	6月19日	6月26日	7月20日	7月16日	4
北斗市	きらら397	6月19日	6月18日	7月8日	7月17日	10

注) 各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

予察田における葉いもち発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	0	0.2	0	2.6	1.0	11.8	9
	ななつぼし	0	0.9	0	7.1	2.5	20.7	9
比布町	きらら397	0	2.3	2.0	11.4	15.5	26.9	10
	ななつぼし	0	0	2.0	6.3	5.5	19.8	4
北斗市	きらら397	1.0	0.2	6.0	5.4	20.0	14.4	10

注) 各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

一般田におけるいもち病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)				普及センター		地点数	発病株率(%)				
			7月3半旬		7月6半旬					7月3半旬		7月6半旬		
			本年	前年	本年	前年				本年	前年	本年	前年	
空知	本所	6	0	0	0	0	渡島	本所	3	0	0	0	0	
	南東部	2	0	0	0	0		檜山	本所	2	0	0	0	0
	南西部	3	0	0	0	0			北部	2	0	0	0	0
	中空知	4	0	0	0	0		上川	本所	8	0	0	0	0
	北空知	7	0	0	0	0			富良野	2	0	0	0	0
石狩	本所	5	0	0	0	0	大雪		4	0	0	0	0	
	北部	7	0	0	0	0	士別	2	0	0	0	0		
後志	本所	4	0	0	0	0	名寄	2	0	0	0	0		
胆振	東胆振	4	0	0	0	0	留萌	本所	4	0	0	0	0	
日高	西部	3	0	0	0	0		南留萌	2	0	0	0	0	

2. ニカメイガ 発生期 やや早 発生量 やや少

予察田のフェロモントラップにおける成虫の初発期は、北斗市で平年より早く、長沼町では平年並であった。誘殺数は北斗市で平年よりやや少なく、長沼町では平年並であった。

予察田におけるフェロモントラップによるニカメイガの誘殺数

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	3.3	1	1.1
2半旬	1	7.3	0	1.2
3半旬	5	21.4	0	1.4
4半旬	12	13.9	0	2.9
5半旬	0	20.1	2	2.1
6半旬	21	13.8	1	2.9
初発期	6月30日	6月29日	7月1日	7月10日
平年数	8		10	

3. ウンカ類 発生期 ヒメトビウンカ(第2回)：やや早、セジロウンカ：早 発生量 並

予察田におけるヒメトビウンカ第2回成虫の初発期は、いずれの地点でも平年よりやや早かった。予察田における水田すくい取りによる初発期は、長沼町および北斗市で平年より早く、比布町では平年より遅かった。

予察田による成虫誘殺数は、長沼町および比布町で平年より少なく、北斗市では平年より多かった。予察田におけるすくい取りによる捕獲数は、長沼町で平年よりやや多く、比布町で平年より少なく、北斗市では平年より多かった。

予察田におけるセジロウンカの初発期は、北斗市で平年より早く、長沼町および比布町では平年より遅かった。予察田における水田すくい取りの初発期は、いずれの地点においても平年より早かった。

予察田による成虫誘殺数は、北斗市で平年並であった。長沼町および比布町では誘殺が認められなかった。予察田における水田すくい取りによる成虫捕獲数は、長沼町で平年並、北斗市では平年よりやや多かった。比布町では捕獲が認められなかった。

一般田における巡回調査によると、全76地点のうち、ヒメトビウンカ成幼虫の水田すくい取りによる捕獲数が吸汁害の発生する密度(成虫：1,800頭、または幼虫：900頭)に達した地点は認められなかった。

ヒメトビウンカ成虫の予察田誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察田誘殺数						水田すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.2	0	0.8	0	0.5	2.5	0.5	5.0	0.6	2.5	0.5
2半旬	8	1.2	8	4.2	0	0.3	15.0	0.8	0	0.5	7.5	0.3
3半旬	0	12.0	0	11.1	1	0.8	12.5	1.7	0	6.3	7.5	1.3
4半旬	2	82.2	238	95.9	43	5.3	22.5	2.1	0	28.4	5.0	2.0
5半旬	43	79.2	17	302.1	59	8.6	22.5	13.4	0	60.5	12.5	3.5
6半旬	9	225.5	181	3387.7	78	13.8	10.0	11.5	40.0	139.0	17.5	4.0
初発期	7月8日	7月13日	7月6日	7月9日	7月15日	7月19日	7月6日	7月17日	7月28日	7月11日	7.Ⅱ	7.V
平年数	10		10		10		8		10		10	

注)初発期は第2回成虫、水田すくい取り数の比布町7月1半旬は第1回成虫の数値

セジロウカ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0	0	0	0	2.0	0	0	0	0	0	0.5
2半旬	0	0	0	0.1	7	0	0	0	0	0	12.5	1.3
3半旬	0	0	0	0.2	1	0.8	2.5	0	0	0.5	25.0	0
4半旬	0	0.8	0	0.3	0	5.1	0	0	0	0	5.0	1.8
5半旬	0	0.7	0	0.5	3	1.9	0	0.2	0	0	7.5	0.3
6半旬	0	2.2	0	17.7	22	21.6	0	0	0	1.0	7.5	7.5
初発期	8月6日	7月22日	8月4日	7月27日	7月8日	7月21日	7.III	8.II	8.I	8.III	7.II	7.V
平年数	10		10		10		8		10		10	

巡回調査によるヒメトビウカ成幼虫の水田すくい取り数(20回振り)

普及センター	地点	地点数	7月6半旬		普及センター	地点	地点数	7月6半旬	
			本年	前年				本年	前年
空知	本所	6	1.2	0.8	渡島	本所	3	1.0	0.7
	南東部	2	8.0	0.5		檜山	本所	2	0
	南西部	3	0	0.3	北部		2	0	0
	中空知	4	0.5	0.5	上川	本所	8	7.0	3.5
	北空知	7	5.7	0.6		富良野	2	5.5	4.0
石狩	本所	5	0.4	0.8		大雪	4	15.8	9.5
	北部	7	0	0		士別	2	0	0
後志	本所	4	5.5	4.5	名寄	2	0	0	
胆振	東胆振	4	0	0	留萌	本所	4	1.3	0
日高	西部	3	0	0		南留萌	2	0	0

4. イネドロオウムシ

発生量 やや少

予察田における幼虫数は、長沼町で平年よりやや多く、比布町および北斗市では平年より少なかった。被害葉率は、長沼町で平年より高く、北斗市および比布町では平年より低かった。

一般田における7月6半旬の巡回調査によると、全76地点のうち、移植栽培で減収する被害葉率70%に達した地点はなかった。

予察田におけるイネドロオウムシの発生状況

月・半旬	水田見取り調査による幼虫数(25株あたり)						被害葉率(%)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	204	53.7	0	84.2	8	73.8	64.1	10.5	0	19.5	3.4	13.8
2半旬	112	74.1	0	43.2	2.5	57.8	59.5	14.1	0	19.8	2.3	27.7
3半旬	35	78.7	1	20.3	6.5	22.7	43.9	17.3	0.1	19.2	3.0	15.2
4半旬	15	54.3	0	6.1	2.5	10.0	36.4	16.6	0.0	18.5	2.8	24.5
5半旬	3.5	23.9	0	2.1	0.5	7.1	28.8	17.1	0.0	17.8	2.9	14.4
6半旬	2	2.0	2	1.7	0	1.5	21.0	13.2	0.3	18.9	0	19.2
平年数	8		10		10		8		10		10	

巡回調査によるイネドロオイムシの幼虫数および被害葉率

普及センター	地点数	幼虫数				被害葉率(%)		
		6月6半旬		7月3半旬		7月6半旬		
		本年	前年	本年	前年	本年	前年	
空知	本所	6	4.8	2.7	4.2	5.8	1.2	0.5
	南東部	2	0	0	6.5	0	0	0
	南西部	3	0.7	0	5.7	2.3	8.3	0.3
	中空知	4	0.5	3.8	1.0	4.8	2.0	0.3
	北空知	7	20.0	4.1	0	0	0	0
石狩	本所	5	0.2	0.4	1.4	0.6	4.5	2.6
	北部	7	0	0	0.7	0	0	0
後志	本所	4	0	0	0.8	0	0	0
胆振	東胆振	4	0	0	0	0	0	0
日高	西部	3	0	0	0	0	0	0.7
渡島	本所	3	0	0	0	0	0	0
檜山	本所	2	0	0	1.0	0.6	2.5	0
	北部	2	0	0	0	0	0	0
上川	本所	8	0	0	0	0	0	0
	富良野	2	0	0	0	0	0	0
	大雪	4	0	0	0	0	0	0
	士別	2	0	0	0	0	0	0
	名寄	2	0	0	0	1.0	0	0
留萌	本所	4	0	0	0	0	0	0
	南留萌	2	0	0	0	0	0	0

5. アカヒゲホソミドリカスミカメ(第2回) 発生期 やや早 発生量 並

予察灯による第2回成虫の初発期は、長沼町で平年並、比布町で平年より遅く、北斗市では平年より早かった。予察田における畦畔すくい取りによる初発期は、長沼町および北斗市で平年より早かった。

予察灯による成虫誘殺数は、長沼町および北斗市で平年よりやや少なく、比布町では平年並であった。予察田における水田すくい取りによる捕獲数は、長沼町および北斗市で平年並であった。比布町では捕獲が認められなかった。

一般田における7月6半旬の巡回調査によると、水田すくい取りによる発生モニタリングでの追加防除の基準である捕獲数2頭以上(「ななつぼし」の場合)となった水田は、全76調査地点のうち、空知、石狩、留萌地方の計6地点であった。

アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察灯誘殺数						畦畔すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	19	10.2	0	2.4	17	9.4	5.0	1.9	0	0.6	2.5	1.0
2半旬	15	27.9	0	1.7	12	9.6	0	2.5	0	0.3	0	0
3半旬	5	164.6	0	5.5	5	23.0	0	1.4	0	0.5	0	1.0
4半旬	24	298.5	34	14.1	77	80.3	12.5	3.1	0	1.5	2.5	1.3
5半旬	235	361.2	7	19.0	35	143.3	12.5	6.9	0	2.5	0	5.5
6半旬	127	864.5	23	128.2	59	129.3	17.5	16.4	0	0.5	0	6.3
初発日	7月6日	7月7日	7月18日	7月10日	6月29日	7月9日	7月6日	7月16日	未発生	7月18日	7月18日	7月26日
平年数	10		10		10		8		10		10	

巡回調査によるアカヒゲホソドリカスミカメ成幼虫の20回振りすくい取り数

普及センター	地点数	畦畔				水田		
		7月3半旬		7月6半旬		7月6半旬		
		本年	前年	本年	前年	本年	前年	
空知	本所	6	0.7	1.0	0	3.7	0.2	1.5
	南東部	2	0	0	2.0	9.5	2.0	5.3
	南西部	3	2.0	1.0	5.0	0.7	3.0	1.0
	中空知	4	1.5	4.8	12.0	20.0	2.3	1.3
	北空知	7	0	0.6	0.1	0	0	0
石狩	本所	5	4.2	0	2.6	3.4	0	1.4
	北部	7	1.1	1.3	3.0	2.1	3.0	1.9
後志	本所	4	0.8	4.0	0.3	0.3	0.3	0.8
胆振	東胆振	4	0	0	0.3	2.0	0.8	0.8
日高	西部	3	0	0	1.0	0	0.3	0.7
渡島	本所	3	2.7	1.0	0	1.7	0	0.3
檜山	本所	2	0	0	0	1.0	0	0.3
	北部	2	0	0	0	0	0	0
上川	本所	8	0.1	3.0	1.8	2.8	0.3	2.1
	富良野	2	1.5	0	0	0	0	0.5
	大雪	4	0	3.0	0.5	2.8	0	7.0
	士別	2	0	0.5	0	2.5	0.5	5.0
	名寄	2	0	0	0	0	0	2.5
留萌	本所	4	4.0	0.6	0.5	1.2	1.0	2.0
	南留萌	2	0.5	1.3	0.5	0.7	0	1.3

6. フタオビコヤガ 発生量 少

予察灯による成虫誘殺数は、いずれの地点でも平年より少なかった。第2回幼虫による予察田の被害葉率は、長沼町で平年並、比布町では平年より低かった。北斗市では被害が認められていない。

予察田におけるフタオビコヤガの発生状況

月・半旬	予察灯誘殺数						被害葉率(%)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	7.0	0	60.4	1	9.7	0.6	1.6	0	1.1	0	0.0
2半旬	2	13.7	1	60.8	0	15.9	0.5	1.6	0	1.0	0	0.1
3半旬	1	24.9	0	16.2	0	7.5	0.4	1.3	0.1	2.2	0	0.0
4半旬	0	3.3	0	3.6	0	0.7	1.0	2.2	0.3	3.8	0	0.0
5半旬	0	1.4	0	20.4	0	3.8	0.9	2.4	0.6	5.3	0	0.0
6半旬	0	16.1	9	227.0	0	18.5	2.5	4.1	0.4	6.6	0	0.2
平年数	10		10		10		8		10		10	

B. 秋まき小麦

1. 赤かび病 発生量 やや少

予察ほにおける主要品種「きたほなみ」での発生量は、訓子府町では平年並であったが、長沼町ではやや少なく、芽室町では少なかった。発生菌種は、訓子府町および芽室町では *Microdochium nivale* および *Fusarium graminearum* の割合が高く、長沼町では *M. nivale* の割合が高かった。

予察ほにおける赤かび病発生状況

地点	品種名	病穂率(%)			病原菌別割合(%)				
		本年	平年	平年数	M.niv.	F.ave.	F.gra.	F.cul.	F.sp.
長沼町	きたほなみ	2.3	5.1	9	75.0	5.0	20.0	0	0
	チホクコムギ	5.3	10.8	10	73.4	13.3	13.3	0	0
芽室町	きたほなみ	1.0	14.4	10	40.0	25.0	35.0	0	0
	チホクコムギ	10.8	23.7	10	39.1	21.7	30.4	4.3	4.3
訓子府町	きたほなみ	11.0	12.4	10	45.0	1.7	53.3	0	0
	チホクコムギ	20.7	22.0	10	71.7	8.3	20.0	0	0

注) M.niv.: *Microdochium nivale*、F.ave.: *Fusarium avenaceum*、F.gra.: *F.graminearum*、F.cul.: *F.culmorum*、F.sp.: その他 *Fusarium*

2. アブラムシ類 発生量 やや少

予察ほにおけるムギヒゲナガアブラムシの発生量は、訓子府町で平年並であった。長沼町では発生が認められなかった。ムギクビレアブラムシの発生量は、長沼町で平年並、訓子府町では平年よりやや少なかった。

予察ほの秋まき小麦におけるアブラムシ類の寄生虫数(25穂あたり)

月・半旬	ムギヒゲナガアブラムシ				ムギクビレアブラムシ			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	3.6	18	29.9	1.5	1.2	0	10.6
2半旬	0	1.6	9	11.7	0	1.6	3	4.6
3半旬	0	1.0	1	3.6	0	0.4	0	1.6
4半旬	-	0	-	5.0	-	0	-	1.4
平年数	10		9		10		9	

注) 25穂あたりの寄生虫数
- : 成熟期により調査不能

C. 春まき小麦

1. 赤かび病 発生量 やや少

予察ほの「春よ恋」における発生量は、比布町では平年よりやや多く、長沼町では平年よりやや少なかった。発生菌種は、比布町および長沼町のいずれも *F.graminearum* の割合が高かった。

予察ほにおける赤かび病発生状況

地点	品種名	病穂率(%)			病原菌別割合(%)			
		本年	平年	平年数	M.niv.	F.ave.	F.gra.	F.cul.
長沼町	春よ恋	23.3	33.0	10	3.3	3.3	93.4	0
比布町	春よ恋	6.3	2.7	5	0	0	100.0	0

注) M.niv.: *Microdochium nivale*、F.ave.: *Fusarium avenaceum*、F.gra.: *F.graminearum*、F.cul.: *F.culmorum*

D. 豆類

1. べと病(大豆) 発生期 やや早 発生量 並

長沼町の予察ほにおける初発期は平年よりやや早く、発生量は平年並であった。

予察ほにおける大豆のべと病発生状況

地点	品種名	初発期		発病度						平年数
				7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	トヨムスメ	7月12日	7月15日	0	2.5	9.0	3.5	15.0	12.6	10

2. 菌核病（菜豆） 発生期 早 発生量 並

芽室町の予察ほにおける初発期は平年より早かった。発生量は平年並であった。

7月6半旬の一般ほにおける巡回調査によると胆振地方および十勝地方で発生が認められている。

予察ほにおける菌核病の発生状況

地点	品種名	初発期		発病度				平年数
				7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	7月10日	7月23日	0	0.1	4.5	4.7	10

一般ほにおける菌核病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)	
			7月6半旬					7月6半旬	
			本年	前年				本年	前年
胆振	本所	1	2.0	0	十勝	本所	3	0	0
上川	士別	1	0	0		東部	6	1.7	0.7
網走	美幌	2	0	0		東北部	4	2.0	11.0
						北部	3	1.3	0
						西部	1	0	0

3. 灰色かび病（小豆・菜豆） 発生期 やや早 発生量 並

長沼町の予察ほ（小豆）における初発期は平年よりやや早く、芽室町の予察ほ（菜豆）では平年並であった。発生量は長沼町および芽室町のいずれも平年並だった。

一般ほにおける7月6半旬の巡回調査によると、十勝地方の菜豆で発生が多く認められている。

予察ほにおける灰色かび病発生状況（小豆）

地点	品種名	初発期		発病度				平年数
				7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	しゅまり	7月30日	8月4日	0	0	1.0	0.2	10

予察ほにおける灰色かび病発生状況（菜豆）

地点	品種名	初発期		発病度				平年数
				7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	7月20日	7月21日	0.8	1.1	5.8	7.3	10

小豆の一般ほにおける灰色かび病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)	
			7月6半旬					7月6半旬	
			本年	前年				本年	前年
石狩	本所	1	0	0	留萌	本所	1	0	1.0
後志	本所	2	0	0	網走	本所	2	0	0
胆振	本所	2	0	0		網走	2	0	1.0
	東胆振	3	0	1.7		美幌	3	0	0
檜山	本所	2	1.5	0	十勝	本所	5	0	0
	北部	1	0	0		東部	6	0	0
上川	富良野	2	0	0		東北部	4	0	0
	大雪	3	0	0		北部	3	0.7	0
	士別	2	0	0		西部	2	0	0
						南部	3	0	0

菜豆の一般ほにおける灰色かび病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)	
			7月6半旬					7月6半旬	
			本年	前年				本年	前年
胆振	本所	1	0	0	十勝	本所	3	3.0	21.7
上川	士別	1	0	0		東部	6	0	3.7
網走	美幌	2	0	0		東北部	4	2.5	1.8
						北部	3	2.3	2.0
						西部	1	10.0	2.5

4. アズキノメイガ (小豆)

発生期 やや早 発生量 並

予察灯における成虫の初発期は、芽室町で平年より早く、長沼町では平年よりやや遅かった。7月の誘殺数は、長沼町で3頭(平年:2.9頭)、芽室町で1頭(平年:1.6頭)と平年並であった。訓子府町では誘殺が認められなかった(平年:1.3頭)。

予察灯におけるアズキノメイガ雄成虫の初発期

長沼町		芽室町		訓子府町	
本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月8日	7月4日	6月24日	7月14日	未発生	7月4日

5. 食葉性鱗翅目幼虫 (大豆・小豆)

発生量 並

予察ほにおける食害程度は、大豆では長沼町および訓子府町で平年並であった。小豆では長沼町および訓子府町で平年並であった。

予察ほの大豆および小豆における食葉性鱗翅目幼虫の食害程度

月・半旬	大豆				小豆			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	9.5	11.7	1	5.1	3	9.6	0	1.6
2半旬	17.5	14.3	4	8.1	4	10.6	2	2.1
3半旬	17	22.3	6	11.8	10	12.5	4	3.7
4半旬	25	25.5	7	17.4	7	14.3	5	6.4
5半旬	25	34.0	16	23.3	19	15.2	5	9.3
6半旬	32	37.4	21	26.8	24	17.5	8	11.8
平年数	10		10		10		9	

6. ジャガイモヒゲナガアブラムシ(大豆)

発生量 やや多

予察ほの大豆における寄生虫数は、訓子府町で平年より多く、芽室町で平年よりやや多く、長沼町では平年よりやや少なかった。

予察ほの大豆におけるジャガイモヒゲナガアブラムシの寄生虫数

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	2.7	3.5	2.6	6	3.7
2半旬	0	2.2	9.5	3.7	3	2.1
3半旬	0	0.7	8	5.5	3	2.7
4半旬	0	0.1	6	7.8	12	1.9
5半旬	3	0.6	6	4.4	8	0.9
6半旬	0	0.4	5	3.8	5	0.6
平年数	10		10		10	

注)25株2小葉、計50小葉の寄生虫数。

7. マメアブラムシ(小豆)

発生量 並

予察ほの小豆における寄生株率は、訓子府町で平年より高く、芽室町で平年並、長沼町で平年より低かった。

予察ほの小豆におけるマメアブラムシの寄生株率(%)

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	2	11.6	4	19.1	32	4.4
2半旬	2	13.1	20	21.2	44	2.2
3半旬	0	12.4	20	16.8	52	6.7
4半旬	0	4.9	12	14.4	28	9.8
5半旬	0	3.1	8	7.2	8	10.2
6半旬	0	2.7	4	2.0	4	8.4
平年数	9		10		9	

E. ばれいしょ

1. 疫病 発生期 並 発生量 並

予察ほの「とうや」における初発期は、長沼町および訓子府町で平年より早く、北斗市および芽室町では平年より遅かった。発生量は訓子府町で平年より多く、長沼町では平年並、北斗市では平年よりやや少なく、芽室町では平年より少なかった。

一般ほにおける巡回調査の報告によるとオホーツク地方で7月3半旬から発生が認められ、7月6半旬には桧山地方および十勝地方の一部でも発生が認められた。

予察ほにおけるばれいしよの疫病初発期

地点	品種名	初発期		平年数
		本年	平年	
長沼町	とうや	7月12日	7月18日	10
	スノーマーチ	7月13日	7月22日	10
北斗市	とうや	7月19日	7月6日	10
芽室町	とうや	7月27日	7月10日	10
	スノーマーチ	7月31日	7月12日	10
訓子府町	とうや	7月8日	7月14日	10
	スノーマーチ	7月8日	7月16日	10

予察ほにおけるばれいしよの疫病発生状況

地点	品種名	発病度											
		7月1半旬		7月2半旬		7月3半旬		7月4半旬		7月5半旬		7月6半旬	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
長沼町	とうや	0	0	0	0.2	0	0.7	21.5	4.0	25.0	17.8	30.0	31.9
	スノーマーチ	0	0	0	0.1	0.5	0.9	14.5	4.3	22.0	13.2	25.5	26.5
北斗市	とうや	0	7.6	0	12.6	0	28.7	1.0	39.1	19.0	45.5	40.0	50.6
芽室町	とうや	0	0.7	0	3.5	0	13.0	0	31.2	0	62.7	1.0	82.6
	スノーマーチ	0	2.1	0	4.3	0	13.7	0	25.5	0	50.7	0	76.1
訓子府町	とうや	0	0	1.0	0.9	18.0	3.5	29.0	8.1	57.5	21.8	77.0	46.1
	スノーマーチ	0	0.1	0.5	0.6	16.0	1.7	27.5	5.4	45.0	13.5	68.5	36.1

一般ほにおけるばれいしよの疫病巡回調査結果

普及センター	地点数	発病株率(%)				普及センター	地点数	発病株率(%)					
		7月3半旬		7月6半旬				7月3半旬		7月6半旬			
		本年	前年	本年	前年			本年	前年	本年	前年		
空知	南東部	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
後志	本所	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
胆振	本所	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
渡島	本所	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
檜山	本所	2	0	16.3	2.5	30.0	0	0	0	0	0	0	0
	北部	4	0	2.8	0.5	8.8	0	0	0	0	0	0	0
上川	富良野	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	大雪	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	士別	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	名寄	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
網走	本所	8	0.3	0	0.8	0	0	0	0	0	0	0	0
	清里	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	網走	2	3.0	1.0	17.5	10.5	0	0	0	0	0	0	0
	美幌	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	十勝	本所	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
十勝	東部	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.7
	東北部	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	北部	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3
	西部	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.7
十勝	南部	3	0	0	1.7	1.0	0	0	0	0	1.7	1.0	0
	釧路	本所	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
根室	北根室	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3	

2. アブラムシ類 発生量 やや多

予察ほにおけるジャガイモヒゲナガアブラムシの発生量は、芽室町および訓子府町で平年より多く、長沼町では平年並であった。ワタアブラムシの発生量は、芽室町および訓子府町で平年より多く、長沼町では平年より少なかった。モモアカアブラムシは、いずれの地点においても寄生が確認されなかった。

一般ほにおける7月6半旬の巡回調査によると、20 複葉当たり 20 頭の寄生数を超えたのは全 68 調査地点のうち、オホーツク地方の2 地点のみであった。

予察ほにおけるアブラムシ類の発生状況

月・半旬	ジャガイモヒゲナガアブラムシ						ワタアブラムシ					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0.2	2.0	2	2.3	14.5	6.4	1.4	3.4	0	0	0	3.6
2半旬	0.1	1.3	13.5	2.9	11.5	9.5	1.2	7.0	1.5	0.6	0	5.3
3半旬	0.7	0.7	15	5.7	15	6.8	0.1	12.5	1	0	38	11.9
4半旬	0.4	0.5	21.5	6.5	42.5	2.9	0	16.5	9	0.2	43	20.6
5半旬	0	0.3	13	4.8	33	2.2	0.7	9.0	16.5	0.9	127.5	38.8
6半旬	0	0.4	8	1.9	10.5	1.9	0	2.5	21	0.2	150	22.7
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 20株各2複葉、合計40複葉を調査。虫数は10株20複葉あたり換算虫数。品種は「スノーマーチ」

巡回調査によるばれいしよのアブラムシ類寄生虫数

普及センター	地点	地点数	7月3半旬		7月6半旬		本年優占種
			本年	前年	本年	前年	
空知	南東部	1	0	0	0	0	
後志	本所	4	0	0.5	0.3	0.3	ヒゲナガ
胆振	本所	2	4.0	4.0	1.5	2.0	
渡島	本所	2	10.5	0	1.0	19.0	ヒゲナガ、ワタ
檜山	本所	4	0.5	0	0	0	
	北部	4	0	0	0	4.5	
上川	富良野	3	0	0	6.7	0	ヒゲナガ、モモアカ
	大雪	3	2.7	2.0	0	0.3	ヒゲナガ、モモアカ
	士別	1	0	0	0	0	
	名寄	1	0	0	0	1.0	
網走	本所	8	1.8	0.7	10.3	1.0	ヒゲナガ、ワタ
	清里	6	0	0.2	0.8	0.4	
	網走	2	0	0.5	11.5	0	
	美幌	2	0	0	2.0	0	ワタ
十勝	本所	5	0	0.2	0	0.2	
	東部	6	0.2	0.2	0.2	0.2	ヒゲナガ、モモアカ
	東北部	1	3.0	1.0	0	0	モモアカ
	北部	3	0	0	0	0	
	西部	2	0.5	0.7	5.0	0.3	ヒゲナガ
南部	3	0	0	0	0	ワタ	
釧路	本所	2	1.0	0	1.0	0	ヒゲナガ
根室	北根室	3	0.7	1.0	1.3	0	ヒゲナガ、モモアカ

注1) 10株20複葉調査

注2) ヒゲナガ: ジャガイモヒゲナガアブラムシ、ワタ: ワタアブラムシ、モモアカ: モモアカアブラムシ

F. てんさい

1. 褐斑病 発生期 並 発生量 やや少

予察ほにおける初発期は、長沼町および芽室町の「あまいぶき」、訓子府町の「リッカ」のいずれも平年並であった。発生量は芽室町の「あまいぶき」で平年並、長沼町の「あまいぶき」では平年よりやや少なく、訓子府町の「リッカ」では平年より少なかった。

一般ほにおける巡回調査の報告によると、石狩、胆振、上川、オホーツク、十勝地方で発生が認められた。

予察ほにおけるてんさいの褐斑病発生状況

地点	品種名 (褐斑病抵抗性)	初発期		発病度						平年数
				7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	あまいぶき(“弱”)	7月10日	7月11日	0	0.9	2.0	2.6	6.4	10.0	10
	ライエン(“やや強”)	7月10日	7月13日	0	0.3	1.6	1.4	4.0	3.7	5
芽室町	あまいぶき(“弱”)	7月8日	7月9日	1.2	1.8	4.4	3.4	11.6	12.6	8
	ライエン(“やや強”)	7月9日	7月6日	0.4	2.9	1.2	3.7	1.2	7.8	5
	スタウト(“強”)	7月8日	7月13日	0.4	2.1	1.2	2.9	1.2	9.7	8
訓子府町	リッカ(“やや強”)	7月13日	7月13日	0	0.3	0.4	1.7	0.8	6.9	10

一般ほにおけるてんさいの褐斑病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)				普及センター		地点数	発病株率(%)					
			7月3半旬		7月6半旬					7月3半旬		7月6半旬			
			本年	前年	本年	前年				本年	前年	本年	前年		
空知	南東部	1	0	0	0	0	網走	本所	10	0.1	0	0.5	0		
			0	0	2.0	0			6	0	0	0	0		
0	0	0	0	清里	2	2.0			0	2.5	0				
0	0	0.5	0.5	網走	5	0			0.4	0	0.2				
0	0	1.3	1.3	美幌	3	1.0			0.1	0.7	0.4				
上川	富良野	3	0	0	0	0		十勝	本所	7	0	0.2	0	0.8	
			0	0	0	0				6	0	0	0	0	
			2.0	2.0	4.0	2.0				東部	4	0.5	0	0.3	0
			5.0	0	0	4.0				東北部	3	0	0	0	0.3
0	0	0	0	北部	3	0				0	2.0	0			
0	0	0	0	西部	3	0	0		0.3	0					
0	0	0	0	南部	3	0	0		0	0					

2. ヨトウガ(第1回) 発生量 並

予察ほにおける見取り調査では、いずれの地点でも卵塊が確認されなかった。被害程度は、長沼町で平年並、芽室町で平年よりやや高く、訓子府町で平年よりやや低かった。

一般ほにおける7月3半旬の巡回調査によると、被害株率が50%以上となったのは全76調査地点のうち、上川地方およびオホーツク地方の6地点であった。

予察ほにおけるヨトウガの卵塊数および被害程度

月・半旬	卵塊数(50株あたり)						被害程度					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.7	0	0.8	0	0	22.5	26.2	20	11.1	0	2.6
2半旬	0	0.5	0	0.2	0	0	39	37.3	26	16.1	2	6.2
3半旬	0	0.3	0	0	0	0	52.5	45.2	38	22.6	5	10.8
4半旬	0	0.2	0	0	0	0	58.5	56.0	43	28.0	8	16.7
5半旬	0	0	0	0	0	0	62.5	59.4	45	31.4	16	22.0
6半旬	0	0.3	0	0.1	0	0	59	61.3	46	33.8	18	27.0
平年数	10		10		10		10		10		10	

巡回調査によるてんさいのヨトウガ被害株率および食害程度

普及センター	地点数	被害株率(%)		食害程度		
		7月3半旬		7月6半旬		
		本年	前年	本年	前年	
空知	南東部	1	0	10.0	0	3.0
石狩	本所	3	23.3	8.5	11.3	2.4
後志	本所	3	10.0	10.7	10.3	17.7
胆振	本所	4	20.3	7.5	6.3	4.8
	東胆振	3	11.0	15.7	10.7	8.0
上川	富良野	3	10.0	6.3	7.0	6.0
	大雪	3	24.0	10.0	16.3	7.0
	士別	2	6.0	19.0	12.0	20.0
	名寄	2	43.0	0	11.8	2.0

普及センター	地点数	被害株率(%)		食害程度		
		7月3半旬		7月6半旬		
		本年	前年	本年	前年	
網走	本所	10	14.5	4.8	5.1	4.6
	清里	6	26.0	0.8	7.5	2.7
	網走	2	46.0	7.0	45.0	10.0
	美幌	5	34.2	6.2	17.2	4.4
	遠軽	3	37.7	10.9	20.0	11.2
十勝	本所	7	4.9	14.8	0.6	3.0
	東部	6	9.0	17.7	2.8	5.2
	東北部	4	23.8	6.8	20.0	10.5
	北部	3	0.7	0	0.7	0
	西部	3	11.0	8.7	3.3	1.3
	南部	3	0.3	0	10.0	0

G. たまねぎ

1. 白斑葉枯病 発生量 並

予察ほにおける発生量は、長沼町では平年並、訓子府町では平年よりやや少なかった。一般ほにおける巡回調査の報告によると、石狩地方を除く全地域で発生が認められた。

予察ほにおけるたまねぎの白斑葉枯病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	北もみじ2000	31.0	34.1	60.0	49.4	75.0	73.2	10
訓子府町	北もみじ2000	2.0	6.1	5.5	12.3	16.5	23.0	8

一般ほにおけるたまねぎの白斑葉枯病巡回調査結果

普及センター	地点数	発病株率(%)				
		7月3半旬		7月6半旬		
		本年	前年	本年	前年	
空知	本所	5	0	0	0	0
	南東部	3	0	0	0	0
	南西部	3	0	0	0	0
	中空知	1	4.0	0	16.0	0
石狩	北部	2	0	4.0	0	4.0
上川	富良野	4	0	1.0	3.0	8.0
	大雪	2	0	-	0	-
	士別	1	8.0	0	0	0

普及センター	地点数	発病株率(%)				
		7月3半旬		7月6半旬		
		本年	前年	本年	前年	
網走	本所	8	0	0.9	6.8	6.3
	清里	2	1.5	-	6.0	-
	美幌	4	2.5	2.5	0	4.8
	遠軽	3	11.3	0	19.0	0
	十勝	本所	3	0	-	8.7
東部	2	21.0	5.0	23.0	100.0	

注) -: 前年実施なし

2. ネギアザミウマ 発生量 やや多

<6月18日付け注意報第3号>

予察ほにおける寄生幼虫数は、長沼町で平年より多く、訓子府町では平年並であった。被害程度は、長沼町で平年より高く、訓子府町では平年並であった。

一般ほにおける7月6半旬の巡回調査によると、全43調査地点のうち、寄生株率が50%以上となったのは空知、上川、オホーツクおよび十勝地方の16地点であった。

予察ほにおけるネギアザミウマの発生状況

月・半旬	幼虫数(25株あたり)				被害程度			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	1313	184.3	476	1371.8	65	27.1	55	57.2
2半旬	717	329.9	740	1594.5	75	37.1	77	70.5
3半旬	1556	350.8	946	1686.6	81	45.3	90	81.7
4半旬	3600	1000.9	1396	1853.0	93	53.3	96	91.6
5半旬	1123	389.7	1146	1690.7	99	59.9	98	94.8
6半旬	-	187.2	1452	1670.4	-	55.8	99	97.2
平年数	10		10		10		10	

注) -:倒伏により調査不能

巡回調査によるたまねぎのネギアザミウマ寄生株率(%)

普及センター	地点数	7月3半旬		7月6半旬		普及センター	地点数	7月3半旬		7月6半旬			
		本年	前年	本年	前年			本年	前年	本年	前年		
空知	本所	5	80.0	100.0	100.0	上川	富良野	4	2.0	1.0	8.0	9.0	
	南東部	3	1.7	43.3	83.3		29.7	大雪	2	40.0	-	45.0	-
	南西部	3	65.3	56.0	58.7		64.0	士別	1	0	0	12.0	12.0
	中空知	1	4.0	72.0	16.0	76.0	網走	本所	8	2.8	18.9	8.3	5.0
石狩	北部	2	10.0	40.0	25.0	60.0		清里	2	64.0	-	76.0	-
								美幌	4	8.0	37.0	5.0	36.0
								遠軽	3	32.0	52.0	45.0	69.0
							十勝	本所	3	52.7	-	34.0	-
								東部	2	92.0	22.0	96.0	58.0

-:前年実施なし

H. あぶらな科野菜

1. 軟腐病 発生量 並

予察ほ(だいこん)の春まき作型における発生量は平年並であった。初夏まき作型では発生が認められていない。

予察ほにおける軟腐病発生状況

地点	作物名	品種名	作型	発病株率(%)						平年数
				7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
				本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	だいこん	おしん	春まき	0	0.2	0	0.7	1.5	2.0	10
		耐病総太り	初夏まき	-	-	0	0	0	0.5	10

注) -:調査時期外

2. モンシロチョウ 発生量 多

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、北斗市で平年より多く、長沼町では平年よりやや多かった。

予察ほのキャベツにおけるモンシロチョウ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.1	38	13.1
2半旬	3	19.4	111	29.7
3半旬	28	33.7	241	47.2
4半旬	98	61.8	222	46.3
5半旬	96	43.2	245	46.6
6半旬	50	30.9	116	20.7
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生虫数。

3. コナガ 発生量 並

フェロモントラップによる成虫誘殺数は、芽室町で平年よりやや多く、長沼町、比布町および北斗市で平年並、訓子府町および滝川市では平年よりやや少なかった。予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、北斗市で平年並、長沼町では平年よりやや少なかった。

コナガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町		滝川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	46	45.7	6	15.8	34	25.8	12	5.5	1	5.8	16	13.7
2半旬	60	82.2	27	19.4	53	36.5	16	5.4	1	6.1	10	14.7
3半旬	92	130.4	6	16.6	68	65.8	8	2.1	4	6.9	6	10.8
4半旬	95	136.5	21	7.6	59	47.0	5	3.1	0	5.6	18	26.5
5半旬	104	90.0	7	11.0	66	45.3	2	2.6	5	4.8	5	14.0
6半旬	78	104.9	2	8.2	42	63.6	6	1.8	0	5.3	4	9.0
平年数	10		5		10		10		10		6	

注) 設置場所はアブラナ科野菜ほ場近辺、比布町、芽室町はアブラナ科野菜以外のほ場近辺、訓子府町は雑草地

予察ほのキャベツにおけるコナガ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	2.1	9	6.6
2半旬	0	6.8	29	32.4
3半旬	23	25.4	41	35.0
4半旬	76	63.5	87	91.4
5半旬	57	144.5	91	189.3
6半旬	64	121.5	94	105.8
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生虫数。

I. りんご

1. 黒星病 発生量 やや多

<4月17日付け注意報第2号>

長沼町の予察園（無防除）での発生量は、「昂林」、「つがる」および「ふじ」のいずれの品種とも平年より多かった。一方、余市町の予察園（慣行防除）では発生が認められていない。

一般園における巡回調査の報告によると、いずれの地域でも発生が認められていない。

長沼町の予察園(無防除)におけるりんごの黒星病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	昂林	62.2	7.3	73.2	11.4	79.7	17.2	10
	つがる	42.3	5.1	50.6	7.6	55.6	8.6	10
	ふじ	61.9	14.5	71.0	25.1	75.4	34.2	3

余市町の予察園(慣行防除)におけるりんごの黒星病発生状況

地点	品種名	病葉率(%)									
		7月第1週		7月第2週		7月第3週		7月第4週		7月第5週	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
余市町	昂林	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—

注1) 余市町の予察園は慣行防除

注2) 調査品種変更に伴い平年値なし

一般園におけるりんごの黒星病巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			7月3半旬	
			本年	前年
後志	北後志	2	0	0.2
胆振	本所	1	0	0
渡島	本所	4	0	2.5
留萌	南留萌	1	0	0

2. 斑点落葉病 発生量 並

長沼町の予察園(無防除)における発生量は新梢および徒長枝のいずれも平年並であった。余市町の予察園(慣行防除)では新梢および徒長枝のいずれでも発生は認められていない。

一般園における巡回調査の報告によると、渡島および留萌地方の感受性品種(デリシャス系等)で発生が認められている。

長沼町の予察園(無防除)におけるりんごの斑点落葉病発生状況

地点 品種名	調査部位	病葉率(%)						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	新梢	0.8	1.4	1.8	2.4	2.1	3.1	10
王林	徒長枝	0.7	1.1	1.0	1.7	1.1	2.8	10

余市町の予察園(慣行防除)におけるりんごの斑点落葉病発生状況

地点 品種名	調査部位	病葉率(%)									
		7月第1週		7月第2週		7月第3週		7月第4週		7月第5週	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
余市町	新梢	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
昂林	徒長枝	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—

注1) 余市町の予察園は慣行防除

注2) 調査品種変更に伴い平年値なし

一般園におけるりんごの斑点落葉病巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			7月3半旬	
			本年	前年
後志	北後志	2	0	0
胆振	本所	1	0	0
渡島	本所	1	1.0	0
留萌	南留萌	1	9.0	9.6

3. ハマキムシ類 発生量 やや少

予察園におけるフェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキの誘殺数は、長沼町で平年より少なく、余市町Aで平年並、余市町Bで平年よりやや多かった。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、岩見沢市、石狩市、壮警町および旭川市で平年より少なく、札幌市および伊達市で平年よりやや少なく、七飯町では平年並であった。

予察園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	3	11.4	3.8	2.5	1.3	2.1
2半旬	0	7.0	1.5	0.5	0.9	1.4
3半旬	1	3.1	0	0.4	0.6	0.7
4半旬	0	2.6	0	0.4	0	0.9
5半旬	0	0.4	0	0.1	5.7	1.2
6半旬	0	0	0	0.1	5.6	0.5
平年数	10		10		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		伊達市		壮警町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	1.0	2.3	6.6	0	1.8	1.3	3.4	0.6	1.2	6	5.6	0.8	2.5
2半旬	0	0.6	0.8	3.7	0	1.0	1	2.3	0	0.3	3	3.4	0	0.7
3半旬	0.2	0.3	0.6	1.6	0	0.0	0	1.7	0	0.1	0	1.3	0	0.4
4半旬	0.3	0.1	0	0.9	0	0.4	0	1.5	0	0.2	0.8	0.9	0	0.4
5半旬	0	0.1	0	0.3	0	0.3	0	1.2	0	0.1	0.2	0.1	0	0.1
6半旬	0	0.1	0	0.2	0	0.1	0.3	0.5	0	0	0	0.3	0	0.5
平年数	10		10		9		10		10		10		9	

注) 岩見沢市の値は2地点の平均。

4. モモシクイガ 発生量 やや多

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、長沼町で平年より多く、余市町Bで平年並、余市町Aでは平年よりやや少なかった。長沼町の予察園における産卵数は平年より多く、被害果率は平年並だが、その上昇はやや早かった。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、札幌市で平年より多く、岩見沢市および壮警町で平年よりやや多く、旭川市で平年並、伊達市および七飯町では平年よりやや少なかった。

巡回調査では、調査対象の5園地いずれにおいても産卵は確認されなかった。

予察園におけるモモンクイガのフェロモントラップによる誘殺数、産卵数および被害果率

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						産卵数		被害果率(%)	
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		長沼町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	27	27.8	4.4	13.9	26.3	19.9	13	24.7	0	0.1
2半旬	58	48.2	7.4	14.4	27.2	23.3	52	79.7	0	2.0
3半旬	153	41.0	9.4	18.5	25.6	24.7	298	134.2	11	10.7
4半旬	264	56.3	5	23.4	16.4	34.1	406	193.0	65	37.6
5半旬	250	56.0	12.4	32.8	25	41.2	760	178.6	89	65.5
6半旬	208	90.8	30	39.4	55.7	59.9	427	126.3	92	85.1
平年数	10		10		10		10		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。産卵数は100果あたりの卵数。

一般園におけるモモンクイガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	5	2.3	27.2	7.7	8.3	8.9	7.6	6.3	0.4	0.9	21	11.5
2半旬	16.7	4.2	45.3	11.7	9.3	16.5	10.5	6.9	0.6	2.0	27	17.0
3半旬	26.7	8.1	52.4	19.4	7.7	24.2	15.3	7.6	1.4	6.3	34	21.6
4半旬	30.3	13.6	33.6	20.1	5	25.8	16.7	8.2	7.5	15.9	30.2	30.0
5半旬	25.7	13.4	37.4	19.1	3.9	20.5	15	7.1	21.5	30.4	28.6	35.8
6半旬	22.8	17.9	58.3	22.3	11.8	21.8	17	6.7	15	68.0	15.2	37.2
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 岩見沢市の値は2地点の平均。

5. ハダニ類 発生量 少

予察園においては、いずれの地点でもリンゴハダニの発生は認められなかった。ナミハダニの発生量は、余市町Aで平年より少なかった。長沼町および余市町Bでは発生が認められなかった。

予察園におけるハダニ類成虫の発生状況

月・半旬	リンゴハダニ						ナミハダニ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.4	-	0.4	-	0.4	0	0	-	1.5	-	5.2
2半旬	0	0.4	0	0.1	0	0.4	0	0	0	3.0	0	3.4
3半旬	0	0.2	0	2.5	0	0	0	0.1	0	0.8	0	0
4半旬	0	0.7	-	0.3	-	1.7	0	0.5	-	6.7	-	6.8
5半旬	0	0.3	0	0.4	0	0	0	0	0.2	3.6	0	3.6
6半旬	0	0.4	0	0.1	0	2.1	0	0	0	4.2	0	6.2
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 30葉あたりの寄生数。余市町A、Bの予察園は慣行防除。

6. キンモンホソガ 発生量 並

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、長沼町で平年より多く、余市町Bで平年よりやや多く、余市町Aでは平年並であった。被害葉率は、長沼町では平年並であった。余市町AおよびBでは被害が認められなかった。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、増毛町で平年よりやや多く、札幌市および旭川市で平年並、伊達市で平年よりやや少なく、岩見沢市、石狩市、壮瞥町および七飯町では平年より少なかった。

予察園におけるキンモンホソガの被害葉率およびフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						被害葉率(%)					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	15	7.2	36.3	48.1	113.1	56.5	2.0	0.4	-	0.0	-	0.0
2半旬	19	5.7	40	42.2	136.5	39.7	2.0	0.5	0	0	0	0
3半旬	18	5.9	42.5	51.1	130	29.3	2.0	0.8	0	0.1	0	0
4半旬	9	6.2	35.8	73.0	41.4	27.5	3.0	1.1	-	0.1	-	0.4
5半旬	19	4.5	39.7	55.3	200.3	53.7	3.0	2.7	0	1.1	0	1.0
6半旬	52	4.2	40.3	104.1	462.9	226.9	4.0	3.9	0	1.2	0	0.4
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	5.4	91.3	0	0.6	3	27.4	1.6	2.9	5.6	63.0	4	56.5	2.6	3.1	241.7	43.6
2半旬	2.4	66.3	0	0.4	1	48.2	2	3.8	2.7	94.8	3.9	126.9	1	3.1	282.3	57.0
3半旬	2.6	42.5	0	0.6	1	57.7	2	2.8	4.3	91.0	2.1	131.9	0.8	1.0	56	60.0
4半旬	3.2	32.6	0	0.3	2	65.5	0	3.2	5	79.0	2.5	83.5	0.2	1.1	39	51.3
5半旬	3.2	20.1	0	0.2	0	50.0	1.1	3.7	31.1	50.6	1.1	25.3	0.8	0.4	26.4	40.7
6半旬	0.8	19.2	2	0.3	2	17.3	4.2	11.6	37.2	90.9	0.4	49.5	0	0.2	31.6	28.6
平年数	10		10		6		10		10		10		9		10	

注) 岩見沢市の値は2地点の平均。

6月15日～8月31日は**農薬危害防止運動**実施期間です！

北海道では、農薬の使用に伴う事故・被害を防止するため、農薬を使用する機会が増える6月から8月を期間として、農薬の安全かつ適正な使用や保管管理等を推進する「**農薬危害防止運動**」を実施します。

北海道農政部生産振興局技術普及課
(TEL 011-231-4111 (内線)27-838)
北海道病害虫防除所
(TEL 0123-89-2080)
各総合振興局・振興局農務課



■ 農薬使用に関する注意事項

- 農薬は、農薬取締法に定められた事項が表示されたもの、または特定農薬に該当するものを選び、有効期限内に使い切れる量を購入する。
- 農薬のラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を読んで、十分理解し、表示された濃度や使用量等を守り、必要量以上に農薬を調製しない。
- 散布作業前日は、飲酒を控え、十分な睡眠をとる。体調が優れないときや著しく疲労しているときは、散布作業に従事しない。
- 農薬の使用前には、防除器具等を点検し、十分に洗浄がなされているか確認する。また、農薬の使用後には、防除器具の薬液タンク、ホース、噴頭、ノズル等農薬残留の可能性がある箇所に注意して、洗浄を十分に行う。
- 農薬を散布するときは、必要に応じ、あらかじめ周辺住民等に周知するとともに、看板等を立てるなど現場に近づかないよう配慮する。
特に無人ヘリで防除する場合は、学校や病院等の公共施設及び近隣の住民等に対し、実施予定日時、区域、薬剤等についての事前周知に努める。
- 農薬の飛散による危被害を防止するため、近隣の住民、飼育されている家畜及び蜜蜂、河川等の周辺環境への影響に注意する。
特に無人ヘリで薬剤散布する場合は、有機農産物が生産されているほ場等に農薬が飛散しないよう注意する。
- 農薬の調製及び散布作業中は、マスク、手袋、眼鏡等を着用し、体を防護する。
- 散布作業後は、よくうがいをし、手や顔などの露出部だけでなく入浴し全身を十分洗う。

★ 農薬情報の掲載サイト

農薬の登録情報や農薬取締法等については、農林水産省ホームページの「農薬コーナー」(<https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/>)をご覧ください。